



## 高専の数学について

機械工学科 木村剛三

物事にはすべて盾の両面があり

或は一長一短のものもある。

従つて高校→大学のコースと高専との比較は一概に決めて仕舞う訳にはいかないが、多年、高専で数学の教師を勤め、高専に奉職してからも引き手として数学を担当した経験から感じたことを、三述べてみたいと思う。

入学当初、希望に燃えた学生諸君が一年になり、三年になるにつれて所謂「中だるみ」と称してなんとなくスラングになるとある。君が一年になり、三年になるにつれて所詮、中だるみと称してなんとなくスラングになるとある。

そして高校に進んだ中學の同窓生の話を聞くつけ、なんとなく高校の方が張りがあるのではないかと迷ってみたいと思う。

君が一年になり、三年になるにつれて所詮、中だるみと称してなんとなくスラングになるとある。

は普通科を指す)では一年、二年、三年で、それぞれ数学ⅠⅡⅢを履修することになっているが、多くの高校ではその金で三年の途中まで終るものになっている。

しかし、このことは文科系の受験者にとっては国立でも、数学ⅠⅡⅢで、私立では受験に数学を必要としない大学もあり、受験本位に考え方で数学Ⅲまで教え込まれたとき、数学Ⅲまで教え込まれることは迷惑に思われるようである。又、理科系にとっては早く終りきるのではなかろうか。

もし、そうでないとすれば、まだ先に進める余裕があるに足踏みをさせられていることになる。

実、本校においては一年と二年の間に進むことは大体、高校と同じ内容であるが、三年になると文科分の内容も高度になり、高校ではやや

進むことを止めることになる。

そこで、高校から出度く大学に進むことを調べてみると、少くとも数学に受験勉強の内容も全く無意味だな

どは思わない。しかし、少し事情を調べてみると、少くとも数学に

おいては、幾つかの無駄を含んでいる。第一に高校(ここでは高校)

を集中して努力をしてみると云うことは価値のあることであり、又

それを何うしても、しばらく進まなければならない時である。

そしてそのように青春のある時期ををなげうつてしまふに至る。

一つの目的のために自分の全力

を集中して努力をしてみると云うことは価値のあることであり、又

それを何うしても、しばらく進まなければならない時である。

……

ない行列や行列式、或は微分方程式や複素関数論までやることにならぬが、内容において全く問題にならない。

さて、高校から出度く大学に進むことを調べてみると、少くとも内容、程

度が違ってくる。即ち、学校の特

色がでてくる証であるが、なかに

は、全く抽象的な基礎論に終り

して仕舞い、学部に進んだとき、

改めて応用数学をやらねばなら

いことまでくる。「教養部」た

る所以であるといつて仕舞えばそ

れまでであるが、技術者にとって

は、数学は單なる教養では済ま

ることではないだろうか。そこ

で必要に応じて更に自学自習すれば

よい。何も正規講義でなければな

らないと考える必要はないと思つ

て工学を目指し、それに生涯をか

が広く、高専では基礎的な力学を

つけるために必要最低限に留めて

いるという人がある。しかし一般

教養とは何か。各授業のはしばし

て教官の口から、自分の専門を通じて出る将来に対する熱っぽい考

え方ではないだろうか。これらを

自身の頭の中でミックスし、そこ

から形成される物を正しく把握す

られないものであり、難解な基礎論も現われてきた。当事者たるわれわれとして、実態の把握に見解の相違を感じする部分も

多いが、虚心に耳を傾けているつもりである。

朝日新聞一〇月三日の記事を左に転載し、卒業生・在校生・父兄の方々が、自ら通った途

通りつつある途について、よく考え、かつてたがいに対話する資としたい。

▲朝日新聞社許諾済。(学生主事)

ある高専生の投書をめぐって

「一高専生、署名希望」

といふ署名で、「教育」欄

において一通の手紙がと

られた。それはレポート用紙一枚をべったりうすめた

ことではないだろうか。そこ

で必要に応じて更に自学自習すれば

よい。何も正規講義でなければな

らないと考える必要はないと思つ

て工学を目指し、それに生涯をか

が広く、高専では基礎的な力学を

つけるために必要最低限に留めて

いるという人がある。しかし一般

教養とは何か。各授業のはしばし

て教官の口から、自分の専門を通じて出る将来に対する熱っぽい考

え方ではないだろうか。これらを

自身の頭の中でミックスし、そこ

から形成される物を正しく把握す

れないものであり、難解な基礎論も現われてきた。当事者たるわれわれとして、実態の把握に見解の相違を感じする部分も

多いが、虚心に耳を傾けているつもりである。

朝日新聞一〇月三日の記事を左に転載し、卒業生・在校生・父兄の方々が、自ら通った途

通りつつある途について、よく考え、かつてたがいに対話する資としたい。

▲朝日新聞社許諾済。(学生主事)

ある高専生の投書をめぐって

「一高専生、署名希望」

といふ署名で、「教育」欄

において一通の手紙がと

られた。それはレポート用紙一枚をべったりうすめた

ことではないだろうか。そこ

で必要に応じて更に自学自習すれば

よい。何も正規講義でなければな

らないと考える必要はないと思つ

て工学を目指し、それに生涯をか

が広く、高専では基礎的な力学を

つけるために必要最低限に留めて

いるという人がある。しかし一般

教養とは何か。各授業のはしばし

て教官の口から、自分の専門を通じて出る将来に対する熱っぽい考

え方ではないだろうか。これらを

自身の頭の中でミックスし、そこ

から形成される物を正しく把握す

けないものであり、難解な基礎論

も現われてきた。当事者たるわれわれとして、実態の把握に見解の相違を感じする部分も

多いが、虚心に耳を傾けているつもりである。

朝日新聞一〇月三日の記事を左に転載し、卒業生・在校生・父兄の方々が、自ら通った途

通りつつある途について、よく考え、かつてたがいに対話する資としたい。

▲朝日新聞社許諾済。(学生主事)

ある高専生の投書をめぐって

「一高専生、署名希望」

といふ署名で、「教育」欄

において一通の手紙がと

られた。それはレポート用紙一枚をべったりうすめた

ことではないだろうか。そこ

で必要に応じて更に自学自習すれば

よい。何も正規講義でなければな

らないと考える必要はないと思つ

て工学を目指し、それに生涯をか

が広く、高専では基礎的な力学を

つけるために必要最低限に留めて

いるという人がある。しかし一般

教養とは何か。各授業のはしばし

て教官の口から、自分の専門を通じて出る将来に対する熱っぽい考

え方ではないだろうか。これらを

自身の頭の中でミックスし、そこ

から形成される物を正しく把握す

からだ。

10時間、他は週6時間が標準となっている。実際には実験にかかると時としては徹夜も必要となつてゐる。

大学では「卒業研究」の名称を用いているところが多いが、理工系では、特別研究、工学研究、卒業実験などの名称を付しているものもある。工学部系では年間を通じての換算では週10—20時間をあてているのが多く、中には週36時間のところもある。最終学年に配当するのは当然だが、前期後期均等といふのと、後期に重点配当といふのとある。学部によつては卒研にはワズカの時間しかあてていなゝもの、卒研らしいものを学科目に組みこんでない大学もある。実験を重んずる大学理工系・高専にとって卒研は共通の科目であつて、高校など中等教育以下とは

によって一人、また、三名でチームを組む。教官は教課題を一名で受け持つことがある。

課題を学生諸君の将来の進路と直接結びつけて気苦労するひとがいるがその心配はご無用。どうの、は、高専など高等教育の目標は直接スク役立つところにあるのでなく、大きくて役立つことにあるからだ。研究を進めめる手法がスク役立てて、将来の大成につながらせるのである。

研究の第一段階は計画、調査であり、その礎となるのは文献である。先人の業績の上に積み重ねるために、書籍だけでなく、内外の雑誌を読むことが必要である。

つぎに実験、データの処理。いざも重要で、正確、適正を期す

これが目的である。ひとりよりがりは許されない。  
発表会を例にとると、聴き手は教官および同級生ではあるが、それぞれ課題が異なり、これをせるには、導入の方法、チヤートの使い方、口調など案外手数苦勞のかかるものだ。この発表技術も重要な学習である。

特定教育による少人数での一年間は、マニアック教育とは全く反対の行き方で、この一年間は諸君の人間形成にきっと大きな影響を与えるに違いない。

卒業研究は、実に五年間の学業の総仕上げともいふべきものである。

卒業研究

卒業までの目標に、工学および工業技術の研究と、それをまとめて発表する能力を養つことにあつる。

高専教育課程の標準に示されてゐるようすに、将来各専門分野において開発を推進し、創造性を發揮できる力を養つより心がけなければならない。

内省 としては、計画、調査研究、実験、設計、図面等が含まれおり、学年末にまとめて、その成果を報告させることになつて

「卒業研究」は最も重要な科目の一つであることを請う。諸君は自覺してもらいたい。

ねにこれまでに要る重ね、専門的言  
算してみてもムダ骨だ。  
最後に設計図を含めて報告書  
を作成する。これまで修得した工  
学および技術を基礎として総合的  
に考え、自主的、積極的に問題解  
決に取り組んだ成果であってほし  
い。  
また、各科において三月初めに  
「一、三日ずつかけて卒業研究発表  
会を開催する。  
報告書と発表会とは、発表形式  
が文書と「口頭」との相違は  
あるが、いずれも研究内

卷之三

11	反射型彈性壓力測定について(石崎)	米多比營世 超音波探傷による疵の形状判定(永田)
12	品質管理論(石崎) 城戸成明	有馬慎一・相浦弘親 熱伝導率の温度係数(永田)
13	振動論(大山) 稲田昂	福田欣也・吉津達美 金属の拡散について(永田)
14	自由対流膜沸騰伝達の研究(下村) 池辺賢一郎・田口悟	西田真・吉田哲男 内燃機関について(石崎)
15	金属の拡散について(永田)	吉本幸一・酒井賢一 古島隆・松岡誠治
16	猿渡忠重・栗原和身	田口幸久・田中良夫 真空蒸着について(石崎)
17	小型エンジンの自動制御(木村) 糸永洋・平山栄一	米田徳光・太谷英策 旋盤実習における作業研究(石崎)
18	刃状切刃をもつ工具の切削性能(木本)	浜口敏光・奥園明 反射型皮膜法による光弾性実験(石崎)
19	送風機の騒音測定(猿渡) 境久広・宮崎雅秀	園田昭真・石岡繁美 振动論(大山)
20	送風機の可変ピッチ特性(清森) 井上康夫・高田巧助	第一回生
21	送風機の特性(清森) 岩井彰・松本敏夫	電気工学科
22	オーステナイト系ステンレス鋼の回転曲げ疲れ挙動(小田) 松森秀章・河内山寛	1 薄膜蒸着について(甲木) 2 SCCRインバータ試作(大口) 3 SSSSによるIM速度制御(大口) 4 新旧麥錠器の性能、温度上昇比較(川野)
23	高張力鋼接部の塑性曲げにおける応力ひずみ挙動(小田) 井上幹	田中誠・荒金恵一・塚本善策 高井良幸義・本田功 井上勝博 原田和雄 山口博嗣
24	はすば歯車のホグ切りによる精度誤差(池本) 大坪正彦	吉田博和・木村正一 井上幹
25	後藤利範・石川義幸	谷口安彦・前原昭光

ギエリ夫人  
より  
チボ一家の人々まで

現代国語の  
カリキュラム  
=その1=

……誰が選んでくれ  
んで歩き出した道で  
ら自分で間違ひでな  
——森本 薫 『

杉村春子の十八番（おはじ）を  
借りて来たのは、なにも「間違」  
に気付いたというわけではない。  
長を探り短を捨てて生きる人生  
の知恵は、至極あたりまえのこと  
ではないか。山びこ学校のむうな  
南荒尾・仮校舎に第一期生を迎へ  
たとき、大学でもない、高校でも  
ない、新しい「よいもの」を創り  
出そう。ここには豈かな可能性が  
あると感じた初心は、いまも基本  
的には変わっていない。

可能性は、環境よりも一人人々  
の内にこそ、より多く求めらるべきである。自らを整すことなし  
に、どこに自主性とか自治とか求  
められようか。

一年目までは、読み返してから  
教室に出た。三年目は、ともかく  
も図書室のカウンターに終日座っ  
ていた。七年目の今日は……高  
校制度再検討の声を聞くいま——  
来年度より四・五年への延伸を前  
にして——ここにカリキュラム案

たのでもない、自分で選ぶもの、間違ひと知つたいやうにしなくちや。  
女の一生涯 第三幕 —

毫活字にする事情は「個人的」であることを許されたい。

X X X

▲殊に誰だつて本を読むことの好きな子供はない。私一人本が嫌ひと云ふこともなからう、天下の子供みな嫌ひだから……▼（福音自伝）

△人として  
キユリ一夫人伝（エーヴ）  
何が彼女をそぞさせたか

余の尊敬する人物（矢内原忠雄）「新渡戸博士」を由心に——学校の理想

蘭学事始（杉田玄白）

五重塔（幸田露伴）

福翁自伝（福沢諭吉）

△休み

思出の記（徳富健次郎）の眞と田舎教師（田山花袋）の眞  
△事件や心持を充分に書けぬやうな日記なら廃す方が

夜明け前（島崎藤村） 大河のような長篇への誘い  
藤村詩抄 または  
啄木歌集・高村光太郎詩集  
北原白秋詩集・萩原朔太郎  
詩集のうちよりすきな詩人を  
後期▽  
破戒（島崎藤村）  
三年あたりで青年の環（野  
間宏）を  
■青春■  
伊豆の踊り子（川端康成）  
三四郎（夏目漱石）  
ヰタ・セクサリス・プラス  
舞姫・若き日の幽外  
仮面の告白（三島由紀夫）  
△春休み・一年前期▽  
■友■  
わがいのち月明に燃ゆ  
△しかし友達ができることは  
実に運命的なことだ。我々は  
友なきことを悲しみつつも、  
ただ挾み傍観以外に道はない  
のだ。まづまづからを美さ  
せて、みづから跨るにたる人  
格と教養をつちかうとのみ  
が、我々のなし得ることであ  
る。▽（林尹夫・18才）

こゝろ(夏目漱石)  
宣言(有島武郎)  
友情(武者小路實篤)  
——三人三様。あなたは。  
■人 生 ■

△おれた親を食い尽くして  
力をたくわえる獅子の子のよ  
うに、力強く勇ましく私を振  
り捨てて人生に乗り出して行  
くがいい。』(小さき者へ)  
生まれいする悩み有島武郎  
暗夜行路(志賀直哉)

——すこし早いが——

△夏休み(後期)  
車輪の下(ヘルマンヘッセ)  
チボ一家の人々——『灰色  
のノート』より「父の死」

■社 会 ■

真空地帶(野間宏)  
怒りのぶどう  
(スタンイベック)

土(長塚節)  
女工哀史(細井和善蔵)  
×  
■ア・ラ・カルト  
帰郷(大仏次郎)

△俺は外國で、いつも、ひと  
りでいた。いつか、それに慣  
れて見ると、ひとりでいるの

じつまを合して行くことは、なく、どこまでも自分の勝負だけだ。」と思ひ込んで、生きて来た男だ。だからね、だからね、他の人から見たら、俺は薄情で冷たいんだよ。初めて会って、お前に会って、なんなことを言うのがその証拠だ。……』

△高畠先生に

されどわれらが日々

(柴田 翔)

△俺は死ぬ間際に何を考えるだらか——そいばくは思ひたのです。』『佐野の手紙』

◆講義はイントロダクションか、ダイジェスト(消化剤)。

左の一原則による(読書)ノートが本体である。

◆記録なぐして実験なし。

◆日記とは、時間を異にした「自分」という「他人」との対話である。(梅棹忠夫)

◆精読課題と多読(なんでも)の並行。

◆夏休み・春休みなどには、休みでないと読めないような大作を、一つか二つ読み上げる。長編小説は『歴史』である。

戦争と平和(トルストイ) 榆家の人々(北杜夫)

風と共に去りぬ(ミッチェル) 雪(谷崎潤一郎)

静かな冬(ショーロホフ) 迷路(野上弥生子)

カラマーソフの兄弟(ドストエフスキイ)

ブッデンブローク家の人々(トーマス・マン)

—4—

キユリ夫人伝 より  
チボ一家の人々まで

現代国語の  
カリキュラム  
=その1=

好いと云つたが、それと反  
対に日記に書けぬやうなこと  
せぬといふ處に、日記を書  
といふことのまことの意義  
あるのではないかとかれは  
へた。▽

**出家とその弟子**（倉田亘三）  
『「あのよのんな人はいやです」  
と言ひ、「あなたは好きです」  
と云ふと、「あなたは好きです」  
と云ふことを、ひそかに  
けれども、いつもよく表現す  
る上にいるのですな。』

も淋しいとは思わないように  
なった。自分で選んだ道なの  
だ。これは一筋に踏んで行く  
約はしない。それから、こ  
の世に生きているといふこと  
はな、他の人間との関係のつ  
みの研究のみならず接種性に關  
係のあるあらゆる文献に載っ  
ているデータをカードで分類  
していく。それは、いつどの

吉田盛秋・吉田浩・松田昭市  
7 E.M.について(川上)  
本田博信・佐藤はるひ  
有田正史・藤田武弘・前田義行  
木原雅利・白石寛雄・松藤陽三  
井上保幸・田削孝一  
10 フィルターの研究(辻)  
木原雅利・白石寛雄・松藤陽三  
野口俊英・石田帝力・伊藤博義  
牧野俊一  
11 薄膜蒸着について(甲木)  
2 OCRインバーターの試作と  
これによるインダクションモ  
ータの速度制御(大口)  
12 水松新・野口民夫  
前畠純一・宮崎静雄  
13 電源の変動と誘導電動機の起  
動特性(川野)  
14 発電機の並列運転について  
(川野) 博田能民・松元千速  
森下美喜男  
15 負荷増幅器について(川上)  
加藤修治・西田一・原口孝博  
16 F.M.について(川上)  
池田知隆・日暮良文・藤河房雄  
17 減衰利得 次系における最小  
時間制御(荒木) 久保山明  
18 プランジ式直巻増幅器につ  
いて(荒木)  
青田安功  
19 米田潤一・大村盛治  
20 施設工場の実習(川上)  
21 実習報告会が催された。その内容  
は「学科学年だけが聞くのではなく  
たいなもののが多かった。  
本校としては、卒業までに実習  
は必修という原則で実施して行き  
たいといふ考え方である。  
いわゆる六つの疑問、5W+H  
に答えて形で解説しむ。

人・物・エネルギー・時間・金  
銭、すべての元を総じて運営す  
るものが工場であり、机上の空論、  
仮定ばかりでは成立しない。工学  
の実施場所だ。いろいろの角度か  
ら体験することは、短期であって  
も工学の學習には大きな役割を果  
すに相違ない。

だが、現状では五、六月には五年  
生の将来の行先がほとんど決ま  
てしまつて、実習個所として採  
用内定先は遠慮すべきだと考え  
る。したがつて四年生が主となる  
ので、人員としては四年在籍  
者数より多くなっている。

別表の実習先は大部分が四年生  
で、内定先に行った五年生を若干  
含むので、人員としては四年在籍  
者数より多くなっている。

いづれ W.H.E.N.  
はじめの「なぜ」の項で「短期  
であつても」と述べたが、一百や  
二百や

薄膜蒸着について(荒木)  
2 OCRインバーターの試作と  
これによるインダクションモ  
ータの速度制御(大口)  
12 水松新・野口民夫  
前畠純一・宮崎静雄  
13 電源の変動と誘導電動機の起  
動特性(川野)  
14 発電機の並列運転について  
(川野) 博田能民・松元千速  
森下美喜男  
15 負荷増幅器について(川上)  
加藤修治・西田一・原口孝博  
16 F.M.について(川上)  
池田知隆・日暮良文・藤河房雄  
17 減衰利得 次系における最小  
時間制御(荒木) 久保山明  
18 プランジ式直巻増幅器につ  
いて(荒木)  
青田安功  
19 米田潤一・大村盛治  
20 施設工場の実習(川上)  
21 実習報告会が催された。その内容  
は「学科学年だけが聞くのではなく  
たいもののが多かった。  
本校としては、卒業までに実習  
は必修という原則で実施して行き  
たいといふ考え方である。  
いわゆる六つの疑問、5W+H  
に答えて形で解説しむ。

人・物・エネルギー・時間・金  
銭、すべての元を総じて運営す  
るものが工場であり、机上の空論、  
仮定ばかりでは成立しない。工学  
の実施場所だ。いろいろの角度か  
ら体験することは、短期であって  
も工学の學習には大きな役割を果  
すに相違ない。

夏休みが終つて、各科では工場  
実習報告会が催された。その内容  
は「学科学年だけが聞くのではなく  
たいもののが多かった。  
本校としては、卒業までに実習  
は必修という原則で実施して行き  
たいといふ考え方である。

いわゆる六つの疑問、5W+H  
に答えて形で解説しむ。

なぜ W.H.Y.  
なにを W.H.A.T.  
このWに対しても

夏休みが終つて、各科では工場  
実習報告会が催された。その内容  
は「学科学年だけが聞くのではなく  
たいもののが多かった。  
本校としては、卒業までに実習  
は必修という原則で実施して行き  
たいといふ考え方である。

いわゆる六つの疑問、5W+H  
に答えて形で解説しむ。

工場実習

### 教務主任

### 必ずよい HOW

### この項の心掛けとは、創刊

### 号の川野先生の「新しいもの」を再説じたいた

### は貢献したもの

### を再説じたいた

### きたい。

### 学校からは学年初めに実習じつ

### いの依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出られる工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出られる工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出られる工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面にするが、積

### 極的に受けを申出される工場も

### ある。工場側は忙の中、指導

### 者をつけ下さるのだから、こ迷

### 惑がないといふんだと思ひ。」 の上

### わらず、差し向ける学生がいな

### い。」 の依頼を各方面





今年の高専祭は準備段階より仕事の一端を引き受けた関係から、大まかに開幕迄の経緯をたどり、次に展示等の一部を見た感想を述べ、最後に反省を兼ねて今後の問題にも触れてみようと思つ。先に苦しい言いのがれをすれば、原稿締切りの都合上、行事全体を見る暇がなくて筆を取った次第で不完全なものになるかも知れない。しかし、若し暇を待て、それが叶つたにせよ、知識不足、表現力の拙劣さに嫌気がさすのが落といつものとにかく、思いくまに話を進めよう。

#### ◆準備に当つて その一 ◆